

川越市上下水道事業経営戦略 (R2経営戦略)

令和6年度 取組状況報告書

水 道 事 業

公共下水道事業

— 目次 —

はじめに	1
1. 決算状況・経営の取組状況（水道事業）	2
2. 決算状況・経営の取組状況（公共下水道事業）	6
3. 経営比較分析表を活用した現状分析（水道事業）	10
4. 経営比較分析表を活用した現状分析（公共下水道事業）	17

令和8年1月
川越市上下水道局

はじめに

本市では、水道事業及び公共下水道事業が将来にわたってサービスの提供を安定的に継続できるよう、中長期的な経営の基本計画である「川越市上下水道事業経営戦略（本書中、「R2経営戦略」という。）」を策定しました（令和2年3月）。

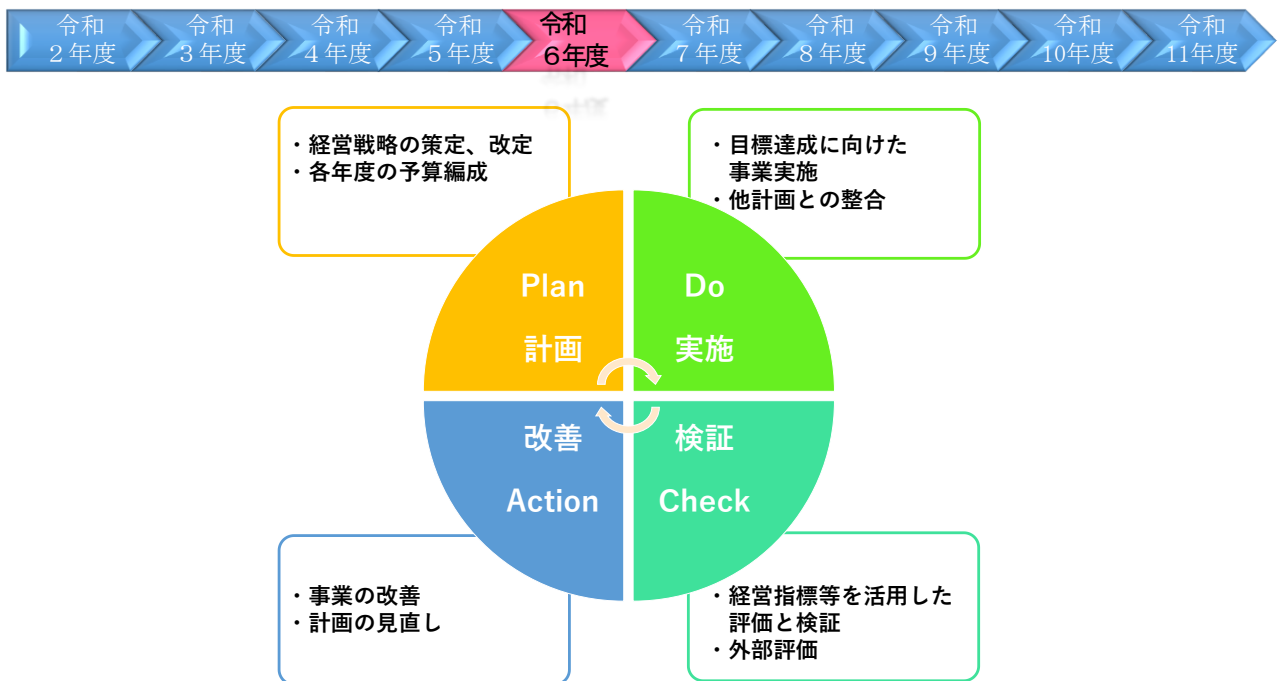
また、総務省は平成31年3月に発出した『「経営戦略」の策定・改定の更なる推進について』において、経営戦略の策定後は、進捗管理や計画と実績との乖離検証を行い、「経営戦略策定・改定ガイドライン」や「経営戦略策定・改定マニュアル」を用いて、定期的な見直しを行うことなどを各地方公共団体に要請しています（PDCAサイクルの確立）。

このたび、令和6年度決算に基づき、経営戦略に掲げた事業計画について、その取組状況を検証するとともに経営状況の評価を行いました。

なお、「R2経営戦略」は令和7年3月に改定を行い、新たに「川越市上下水道事業経営戦略（令和7年度版）」を策定しました。来年度以降は、改定後の内容に基づいた取り組み状況について、報告させていただきます。

R2経営戦略 計画期間：令和2年度～令和11年度

本書における検証・評価：令和6年度



川越市上下水道事業経営戦略におけるPDCAサイクル

1. 決算状況・経営の取組状況

水道事業

(1) 令和6年度決算

令和6年度の収益的収支では、約4億5,400万円の当年度純利益が生じ、前年度に比べて約3,100万円の増加となりました。計画値との比較では、当年度純利益は、約3億7,700万円下回る結果となりました。

資本的収支では、前年度と比べて資本的収入が約3,800万円増加し、資本的支出が約3億800万円減少した結果、資本的収支不足額は約3億4,600万円減少しました。計画値との比較では、資本的収支不足額は約3億9千万円下回る結果となりました。

(2) 経営の取組状況

経営戦略に基づいた事業運営を着実に推進するために、計画に掲げた投資及び財源の目標に沿った取組の評価を毎年度実施します。

評価結果を事業や今後の計画に反映させることにより、継続的に改善を行います。

① 評価の方法

経営戦略に掲げた投資及び財源に関する方向性で示した数値目標に関する達成度合いについて評価（内部評価）を行います。

② 評価基準

目標を設定した指標について、以下の基準に基づき評価を行い、C評価となった項目については、改善の取組に関する検討を行います。

A	順調	問題なく進んでいる
B	おおむね順調	計画期間終了までに目標を達成できる見込みがある
C	遅れている	進展が遅く、改善の取組を進める必要がある

③ 評価の総括（各指標についてはP3【令和6年度取組状況に関する評価（水道事業）】に記載）

投資については、目標値に向けて概ね順調に推移していますが、管路の更新については、より一層強化を図る必要があります。

財源については、料金回収率が100%を下回る状況が続いており、給水に要する費用を水道料金収入で賄っていない状況にあります。施設の老朽化が進行しているため、計画的な更新や維持管理を見据え、適正な水道料金の確保が必要です。

◆令和6年度取組状況に関する評価（水道事業）

1. 投資に関する方向性

目標値 【参考】

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29)	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R10	R16
有収率 （年間有収水量／ 年間配水量）	数値	94.56 %	93.25 %	94.02 %	94.71 %	94.25 %	95.03 %	94.77%	95.0 %	95.0 %
	評価	—	—	B	B	B	A	B		
管路更新率 （更新管路延長／ 管路総延長）	数値	0.98 %	0.94 %	0.96 %	1.40 %	1.29 %	1.04 %	0.91%	1.25 %	1.25 %
	評価	—	—	B	A	A	B	C		
重要施設配水管耐震化率 （耐震化済延長／ 全重要施設配水管延長）	数値	15.8 %	18.0 %	20.3 %	21.4 %	23.1 %	23.8 %	25.0%	30.0 %	42.0 %
	評価	—	—	B	B	B	B	B		
配水管耐震化率 （耐震化済延長／ 配水管延長）	数値	20.1 %	22.1 %	23.2 %	24.5 %	26.1 %	27.4 %	28.4%	32.6 %	43.0 %
	評価	—	—	B	B	B	B	B		

3

2. 財源に関する方向性

目標値 【参考】

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29)	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R10	R16
料金回収率 （供給単価／給水原価）	数値	103.53 %	95.53 %	96.25 %	97.45 %	93.60 %	94.55 %	95.75 %	100%以上	100%以上
	評価	—	—	B	B	C	C	C		
累積欠損金比率	数値	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生
	評価	—	—	A	A	A	A	A		
企業債残高対給水収益比率 （企業債現在高合計／ 給水収益）	数値	134.92 %	134.71%	139.28 %	136.17 %	139.62 %	135.71 %	139.64 %	200%以内	250%以内
	評価	—	—	A	A	A	A	A		
内部留保資金	数値	約 25.1 億円	約 39.7 億円	約 38.6 億円	約 38.8 億円	約 36.7 億円	約 33.4 億円	約 33.8 億円	25億円以上	30億円以上
	評価	—	—	A	A	A	A	A		

※計画策定時における指標値として当初値（平成29年度末）、計画初年度の前年度対比として令和元年度末の値を併記しています。

※各指標項目は、改定後の経営戦略においても引き続き目標として設定しています（参考のため、最終年度における目標値を掲載しています）。

◆令和6年度収支状況

水道事業収益の収支

科目	令和5年度決算額	令和6年度決算額
水道事業収益	6,313,220,731	6,264,753,084
営業収益	5,890,294,026	5,838,963,906
営業外収益	422,785,029	425,759,558
特別利益	141,676	29,620
水道事業費用	5,889,688,359	5,810,409,455
営業費用	5,784,360,982	5,714,662,546
営業外費用	100,461,253	94,272,929
特別損失	4,866,124	1,473,980
当年度純利益	423,532,372	454,343,629

水道事業資本の収支

科目	令和5年度決算額	令和6年度決算額
資本の収入	1,021,147,119	1,059,536,712
企業債	600,000,000	800,000,000
他会計負担金	43,145,000	37,994,000
工事負担金	267,005,219	131,685,610
水道施設加入金	106,407,400	89,854,600
国庫補助金	4,221,000	0
固定資産売却代金	368,500	2,502
他会計補助金	0	0
資本の支出	3,466,024,127	3,158,072,261
建設改良費	2,792,324,317	2,557,854,599
企業債償還金	673,699,810	600,217,662
予備費	0	0
資本の収支	△ 2,444,877,008	△ 2,098,535,549

令和6年度取組状況報告書

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
△ 48,467,647	6,994,891,000	△ 730,137,916
△ 51,330,120	6,627,904,000	△ 788,940,094
2,974,529	366,977,000	58,782,558
△ 112,056	10,000	19,620
△ 79,278,904	6,163,278,000	△ 352,868,545
△ 69,698,436	6,017,933,000	△ 303,270,454
△ 6,188,324	140,571,000	△ 46,298,071
△ 3,392,144	4,774,000	△ 3,300,020
30,811,257	831,613,000	△ 377,269,371

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
38,389,593	913,084,000	146,452,712
200,000,000	700,000,000	100,000,000
△ 5,151,000	53,184,000	△ 15,190,000
△ 135,319,609	52,352,000	79,333,610
△ 16,552,800	107,548,000	△ 17,693,400
△ 4,221,000	0	0
△ 365,998	0	2,502
0	0	0
△ 307,951,866	3,402,219,000	△ 244,146,739
△ 234,469,718	2,805,639,000	△ 247,784,401
△ 73,482,148	591,580,000	8,637,662
0	5,000,000	△ 5,000,000
346,341,459	△ 2,489,135,000	390,599,451

2. 決算状況・経営の取組状況

公共下水道事業

(1) 令和6年度決算

令和6年度の収益的収支では、約850万円の当年度純利益が生じましたが、前年度に比べて約2億1,600万円の減少となりました。計画値との比較では、当年度純利益は、約6,400万円下回る結果となりました。

資本的収支では、前年度と比べて資本的収入が約640万円減少し、資本的支出が約5億9,200万円増加した結果、資本的収支不足額は約5億9,800万円増加しました。計画値との比較では、資本的収支不足額は約9億3,400万円上回る結果となりました。

(2) 経営の取組状況

経営戦略に基づいた事業運営を着実に推進するために、計画に掲げた投資及び財源の目標に沿った取組の評価を毎年度実施します。

評価結果を事業や今後の計画に反映させることにより、継続的に改善を行います。

① 評価の方法

経営戦略に掲げた投資及び財源に関する方向性で示した数値目標に関する達成度合いについて評価（内部評価）を行います。

② 評価基準

目標を設定した指標について、以下の基準に基づき評価を行い、C評価となった項目については、改善の取組に関する検討を行います。

A	順調	問題なく進んでいる
B	おおむね順調	計画期間終了までに目標を達成できる見込みがある
C	遅れている	進展が遅く、改善の取組を進める必要がある

③ 評価の総括（各指標についてはP7【令和6年度取組状況に関する評価（下水道事業）】に記載）

投資については、管きよの長寿命化に向けた詳細設計や耐震化対策などを着実にを行い、目標値に向けて概ね順調に推移しています。一方、有収率は、降雨量の増加に伴い、数値が低下しています。

財源については、経費回収率が100%を下回る状況が続いており、汚水処理に要する経費を下水道使用料収入で賄えていない状況です。施設の更新や維持管理を見据え、適正な下水道使用料の確保が必要です。

※令和7年7月、「川越市上下水道事業経営審議会」に下水道使用料の改定について諮問し、同年12月、改定はやむを得ないとする答申をいただいています。

◆令和6年度取組状況に関する評価（公共下水道事業）

1. 投資に関する方向性

（当初値／実績値／目標値）		当初（H29 末）	R元末実績	R2末実績	R3末実績	R4末実績	R5実績	R6実績	目標値	【参考】
長寿命化管きょ延長	数値	31.7 km	32.3 km	33.8 km	34.2 km	34.6 km	34.8 km	34.9 km	36.7 km	44.8 km
	評価	—	—	B	B	B	B	B		
管きょ耐震化率 （耐震管渠延長／ 管渠総延長）	数値	14.5 %	15.5 %	17.0 %	18.4 %	18.6 %	19.2 %	19.7 %	22.8%	27.3%
	評価	—	—	A	A	B	B	B		
有収率 （年間有収水量／ 年間汚水処理量）	数値	71.30 %	65.70 %	68.60 %	74.04 %	75.32 %	79.11 %	70.98 %	80.0%	80.0%
	評価	—	—	C	C	B	B	C		

2. 財源に関する方向性

（当初値／実績値／目標値）		当初（H29 末）	R元末実績	R2末実績	R3末実績	R4末実績	R5実績	R6実績	目標値	【参考】
経費回収率 （下水道使用料／汚水処理費）	数値	107.44 %	86.93 %	87.92 %	92.59 %	91.54 %	93.25 %	87.67 %	100%以上	100%以上
	評価	—	—	B	B	C	C	C		
累積欠損金比率	数値	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生	未発生
	評価	—	—	A	A	A	A	A		
企業債残高対事業規模比率 （企業債現在高合計－一般会計負担額／ 営業収益－受託工事収益－雨水処理負担金）	数値	172.23 %	*156.26 %	146.39 %	133.20 %	119.36 %	96.88 %	76.10 %	200%以内	200%以内
	評価	—	—	A	A	A	A	A		
内部留保資金	数値	約34.8 億円	約45.7 億円	約48.4 億円	約48.1 億円	約49.5 億円	約52.7 億円	約48.8 億円	30億円以上	25 億円以上
	評価	—	—	A	A	A	A	A		

※経費回収率は、令和元年度から総務省が示した地方公営企業決算状況調査の基準に基づいた汚水処理費用を基に算出しています。

（本市の基準に基づいた令和6年度の経費回収率は101.23%です）

※計画策定時における指標値として当初値（平成29年度末）、計画初年度の前年度対比として令和元年度末の値を併記しています。

※各指標項目は、改定後の経営戦略においても引き続き目標として設定しています（参考のため、最終年度における目標値を掲載しています）。

◆令和6年度収支状況

公共下水道事業収益の収支

科目	令和5年度決算額	令和6年度決算額
下水道事業収益	5,866,311,961	5,844,795,753
営業収益	4,184,453,213	4,196,601,560
営業外収益	1,662,425,329	1,625,029,110
特別利益	19,433,419	23,165,083
下水道事業費用	5,641,575,301	5,836,267,275
営業費用	5,330,150,096	5,533,646,364
営業外費用	290,389,520	283,514,808
特別損失	21,035,685	19,106,103
当年度純利益	224,736,660	8,528,478

公共下水道事業資本の収支

科目	令和5年度決算額	令和6年度決算額
資本的收入	808,615,889	802,199,995
企業債	269,900,000	438,400,000
国庫補助金	60,000,000	52,200,000
工事負担金	217,800	92,600
その他	63,739,300	78,065,200
他会計負担金	55,803,339	58,357,640
他会計補助金	358,263,000	173,646,262
固定資産売却代金	692,450	1,438,293
資本の支出	2,817,496,341	3,409,267,529
建設改良費	1,808,955,593	2,456,171,553
企業債償還金	1,008,540,748	953,095,976
予備費	0	0
資本の収支	△ 2,008,880,452	△ 2,607,067,534

令和6年度取組状況報告書

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
△ 21,516,208	6,125,588,000	△ 280,792,247
12,148,347	4,217,947,000	△ 21,345,440
△ 37,396,219	1,890,441,000	△ 265,411,890
3,731,664	17,200,000	5,965,083
194,691,974	6,052,935,000	△ 216,667,725
203,496,268	5,768,862,000	△ 235,215,636
△ 6,874,712	263,335,000	20,179,808
△ 1,929,582	20,738,000	△ 1,631,897
△ 216,208,182	72,653,000	△ 64,124,522

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
△ 6,415,894	1,131,276,000	△ 329,076,005
168,500,000	600,000,000	△ 161,600,000
△ 7,800,000	134,600,000	△ 82,400,000
△ 125,200	0	92,600
14,325,900	39,300,000	38,765,200
2,554,301	66,146,000	△ 7,788,360
△ 184,616,738	291,230,000	△ 117,583,738
745,843	0	1,438,293
591,771,188	2,804,474,000	604,793,529
647,215,960	1,845,933,000	610,238,553
△ 55,444,772	953,541,000	△ 445,024
0	5,000,000	△ 5,000,000
△ 598,187,082	△ 1,673,198,000	△ 933,869,534

3. 経営比較分析表を活用した現状分析

水道事業

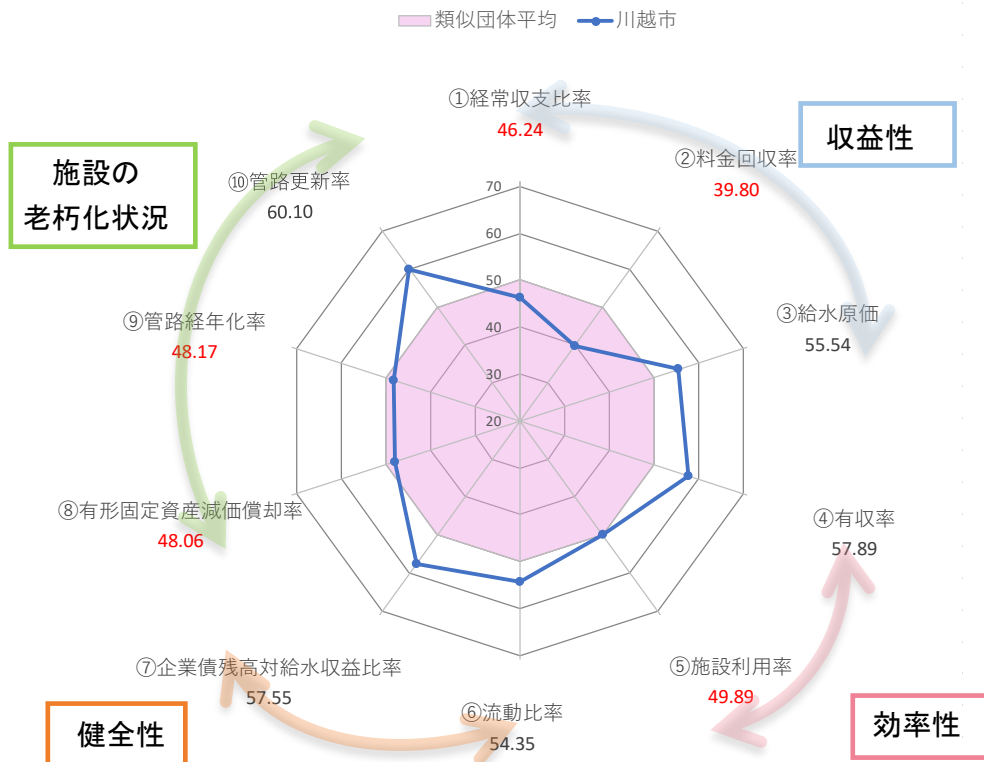
経営比較分析表とは、総務省が示した統一様式により、公営企業における経営や施設の状況を表す指標について、経年変化や類似団体平均との比較分析を行うことで、現状や課題等を把握することができる資料です。

本取組状況報告書では、経営比較分析表から令和5年度の各指標値を抽出し、類似団体の平均（ピンク色）を偏差値50とし、外側に向かうほど各指標が平均よりもよいことを表すレーダーチャートを下図のとおり作成しました。

また、次ページ以降に掲載している経営比較分析表では、令和5年度以前の5年間ににおける各指標値と類似団体平均値を比較するとともに、本市の令和6年度の指標値を示しています（令和6年度の類似団体平均値は、総務省より令和8年2月頃に公表される見込みです）。

なお、類似団体とは、給水形態及び現在給水人口規模により区分されたもので、川越市は「末端給水事業、現在給水人口30万人以上」の区分に属しています（令和5年度は全国に50団体あります）。

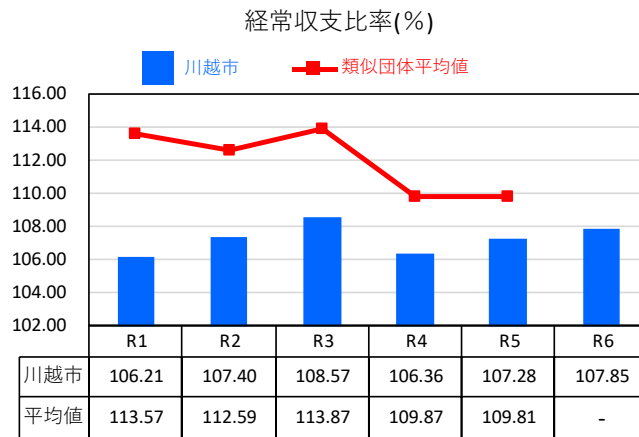
経営比較分析表レーダーチャート（令和5年度 水道事業）



令和6年度取組状況報告書

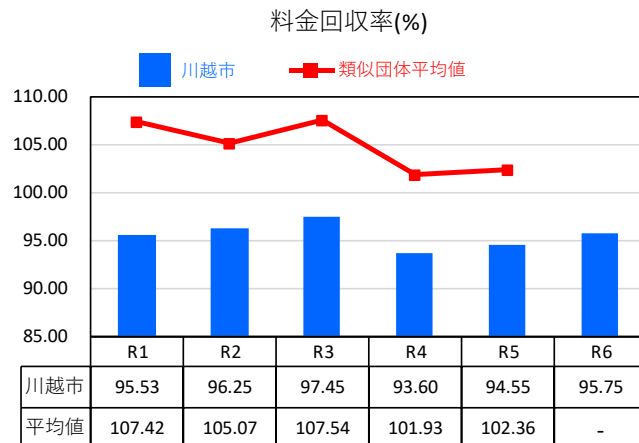
収益性 に関する指標

業務指標	①経常収支比率(%) 評価基準 高い方がよい 計算式 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
①経常収支比率(%)	
評価基準	
高い方がよい	
計算式	
説明 毎年度の維持管理費や支払利息等の費用を、料金収入や繰入金等でどの程度賄えているかを示す指標です。100%以上であるときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。	評価 100%以上で推移し黒字ではあるものの、類似団体よりやや低い傾向にあります。今後は、人口減少に伴う給水収益の減少や老朽管の更新に伴う減価償却費の増加等が見込まれるため、収支バランスを注視し、経営環境の変化に応じた対策が必要です。



収益性 に関する指標

業務指標	②料金回収率(%) 評価基準 100%を超えること 計算式 $\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$
②料金回収率(%)	
評価基準	
100%を超えること	
計算式	
説明 給水に要した経費を、料金収入でどの程度賄えているかを示した指標です。料金水準等を評価することが可能で、すべて料金収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な水道料金が確保されることになります。	評価 近年は、100%を下回る状況が続いており、料金収入で給水費用を賄えていない状態です。今後想定される施設の維持や修繕等に要する費用を踏まえた適正な料金水準について検討する必要があります。



川越市上下水道事業経営戦略 (R2 経営戦略)

令和6年度取組状況報告書

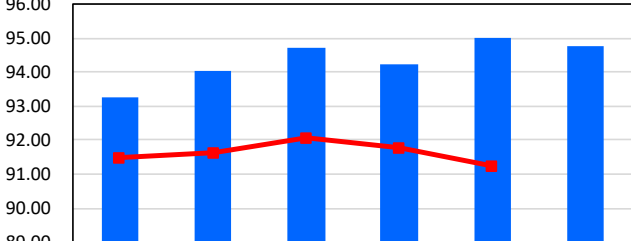
収益性 に関する指標

業務指標	
③給水原価(円/m ³)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
経常費用－ 受託工事費 ＋材料及び不用品売却原価 ＋附帯事業費 －長期前受金戻入 年間（総）有収水量	
説明	
水道料金の対象となった水量1㎡当たりの給水に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方がよいとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行う必要があります。	

給水原価(円/m ³)							
	川越市	類似団体平均値					
		R1	R2	R3	R4	R5	R6
川越市	150.33	141.86	144.11	146.62	149.25	147.82	
平均値	157.19	153.71	155.90	162.47	165.52	-	

評価	
類似団体より低く、低コストで配水することができています。一方で、施設の老朽化に伴い、今後は維持管理費の増加が想定されます。さらに、令和8年度から県水の受水費単価の改定が予定されていることから、給水原価の上昇が見込まれます。	

効率性 に関する指標

業務指標	有収率(%)  <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>93.25</td><td>94.02</td><td>94.71</td><td>94.25</td><td>95.03</td><td>94.77</td></tr><tr><td>平均値</td><td>91.48</td><td>91.64</td><td>92.09</td><td>91.76</td><td>91.22</td><td>-</td></tr></tbody></table>		R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	93.25	94.02	94.71	94.25	95.03	94.77	平均値	91.48	91.64	92.09	91.76	91.22	-
		R1	R2	R3	R4	R5	R6															
川越市		93.25	94.02	94.71	94.25	95.03	94.77															
平均値		91.48	91.64	92.09	91.76	91.22	-															
④有収率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{年間（総）有収水量}}{\text{年間（総）配水量}} \times 100$																						
説明	評価																					
浄水場・受水場から配水した水量のうち、実際に水道料金の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほどよいとされています。	類似団体より高い傾向にあります。今後も適正な維持管理や計画的な老朽管更新等を継続し、漏水の防止に取り組んでいく必要があります。																					

川越市上下水道事業経営戦略（R2 経営戦略）

令和6年度取組状況報告書

効率性 に関する指標

業務指標																						
⑤施設利用率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$																						
施設利用率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>65.50</td><td>66.60</td><td>65.78</td><td>64.98</td><td>63.64</td><td>63.77</td></tr><tr><td>平均値</td><td>63.16</td><td>64.41</td><td>64.11</td><td>63.81</td><td>63.76</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	65.50	66.60	65.78	64.98	63.64	63.77	平均値	63.16	64.41	64.11	63.81	63.76	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	65.50	66.60	65.78	64.98	63.64	63.77																
平均値	63.16	64.41	64.11	63.81	63.76	-																
説明	評価																					
水道施設の効率性を示し、施設の利用状況や適正規模を判断するための指標です。明確な数値基準はありませんが、高い数値の方がよいとされています。数値が高すぎる場合は施設の余裕が少なく、低すぎる場合は無駄のある状態です。	コロナ禍による影響で一時的に増加しましたが、その後は緩やかに減少傾向にあります。今後は人口減少や社会情勢の動向を注視しつつ、適正な施設規模のあり方について検討が必要です。																					

健全性 に関する指標

業務指標																						
⑥流動比率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
流動資産 流動負債 × 100																						
流動比率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>397.98</td><td>346.14</td><td>379.46</td><td>354.68</td><td>315.47</td><td>380.21</td></tr><tr><td>平均値</td><td>250.03</td><td>239.45</td><td>246.01</td><td>228.89</td><td>232.66</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	397.98	346.14	379.46	354.68	315.47	380.21	平均値	250.03	239.45	246.01	228.89	232.66	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	397.98	346.14	379.46	354.68	315.47	380.21																
平均値	250.03	239.45	246.01	228.89	232.66	-																
説明	評価																					
1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。200%を超えていることが望ましく、100%未満では不良債権が発生している可能性があります。	類似団体より高い水準を維持しており、短期的な支払能力を確保できています。																					

令和6年度取組状況報告書

健全性に関する指標

業務指標																						
⑦企業債残高対給水収益比率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$																						
企業債残高対給水収益比率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>134.71</td><td>139.37</td><td>136.17</td><td>139.62</td><td>135.71</td><td>139.64</td></tr><tr><td>平均値</td><td>254.19</td><td>259.56</td><td>248.92</td><td>251.26</td><td>255.84</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	134.71	139.37	136.17	139.62	135.71	139.64	平均値	254.19	259.56	248.92	251.26	255.84	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	134.71	139.37	136.17	139.62	135.71	139.64																
平均値	254.19	259.56	248.92	251.26	255.84	-																
説明	評価																					
企業債の残高と料金収入等の収益との比率を示す指標です。明確な数値基準はありませんが、比率は低い方がよいとされています。ただし、世代間負担の公平性という観点からは、企業債を一定程度活用することも望まれます。	類似団体より低い水準で推移しています。企業債は、今後も更新事業の財源とする見込みであるため、料金水準や世代間負担を考慮した適正な水準を定めたうえで活用する必要があります。																					

健全性に関する指標

業務指標																						
累積欠損金比率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$																						
累積欠損金比率(%) 川越市 類似団体平均値 1.00 0.90 0.80 0.70 0.60 0.50 0.40 0.30 0.20 0.10 0.00 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>川越市</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td></tr><tr><td>平均値</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>-</td></tr></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	平均値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00																
平均値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-																
説明																						
累積欠損金とは、営業活動の結果発生した損失が、当該年度で処理できずに複数年度にわたって累積したものを示しています。健全な経営を維持していく上では、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。																						
評価																						
本市では、累積欠損金は発生していません。																						

川越市上下水道事業経営戦略（R2 経営戦略）

令和6年度取組状況報告書

施設 の老朽化状況

業務指標																						
⑧有形固定資産減価償却率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$																						
有形固定資産減価償却率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>川越市</td><td>51.08</td><td>51.92</td><td>52.69</td><td>53.02</td><td>53.64</td><td>53.98</td></tr><tr><td>平均値</td><td>51.13</td><td>51.62</td><td>52.16</td><td>52.59</td><td>52.74</td><td>-</td></tr></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	51.08	51.92	52.69	53.02	53.64	53.98	平均値	51.13	51.62	52.16	52.59	52.74	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	51.08	51.92	52.69	53.02	53.64	53.98																
平均値	51.13	51.62	52.16	52.59	52.74	-																
説明	評価																					
有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるのかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいることを示しています。	類似団体と同水準ですが、上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行しています。計画的、効率的に償却対象資産の更新を行う必要があります。																					

施設 の老朽化状況

業務指標																						
⑨管路経年化率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$																						
管路経年化率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>24.71</td><td>25.86</td><td>27.52</td><td>29.16</td><td>30.08</td><td>31.00</td></tr><tr><td>平均値</td><td>22.41</td><td>23.68</td><td>25.76</td><td>27.51</td><td>28.57</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	24.71	25.86	27.52	29.16	30.08	31.00	平均値	22.41	23.68	25.76	27.51	28.57	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	24.71	25.86	27.52	29.16	30.08	31.00																
平均値	22.41	23.68	25.76	27.51	28.57	-																
説明	評価																					
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す指標で、管路の老朽化度合いを表しています。	類似団体よりやや高く、上昇傾向にあります。管種別に設定した本市独自の更新基準年数や管路・施設の重要度等を考慮しつつ、計画的な更新を進める必要があります。																					

令和6年度取組状況報告書

施設の老朽化状況

業務指標	管路更新率(%) <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>川越市</td><td>0.94</td><td>0.96</td><td>1.40</td><td>1.29</td><td>1.04</td><td>0.91</td></tr><tr><td>平均値</td><td>0.73</td><td>0.79</td><td>0.75</td><td>0.78</td><td>0.73</td><td>-</td></tr></table>		R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	0.94	0.96	1.40	1.29	1.04	0.91	平均値	0.73	0.79	0.75	0.78	0.73	-
		R1	R2	R3	R4	R5	R6															
川越市		0.94	0.96	1.40	1.29	1.04	0.91															
平均値		0.73	0.79	0.75	0.78	0.73	-															
⑩管路更新率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
当該年度に更新した 管路延長 ————— ×100 管路延長																						
説明	評価																					
その年度に更新した管路延長の割合を示した指標で、更新の取組状況を表しています。法定耐用年数の40年で全ての管路を更新するためには、毎年2.5%ずつ更新する計算となります。	類似団体より高い水準となっていますが、近年、数値は低下傾向にあります。管路の機能保全に向け、アセットマネジメントに基づき、更新の強化を図る必要があります。																					

4. 経営比較分析表を活用した現状分析

公共下水道事業

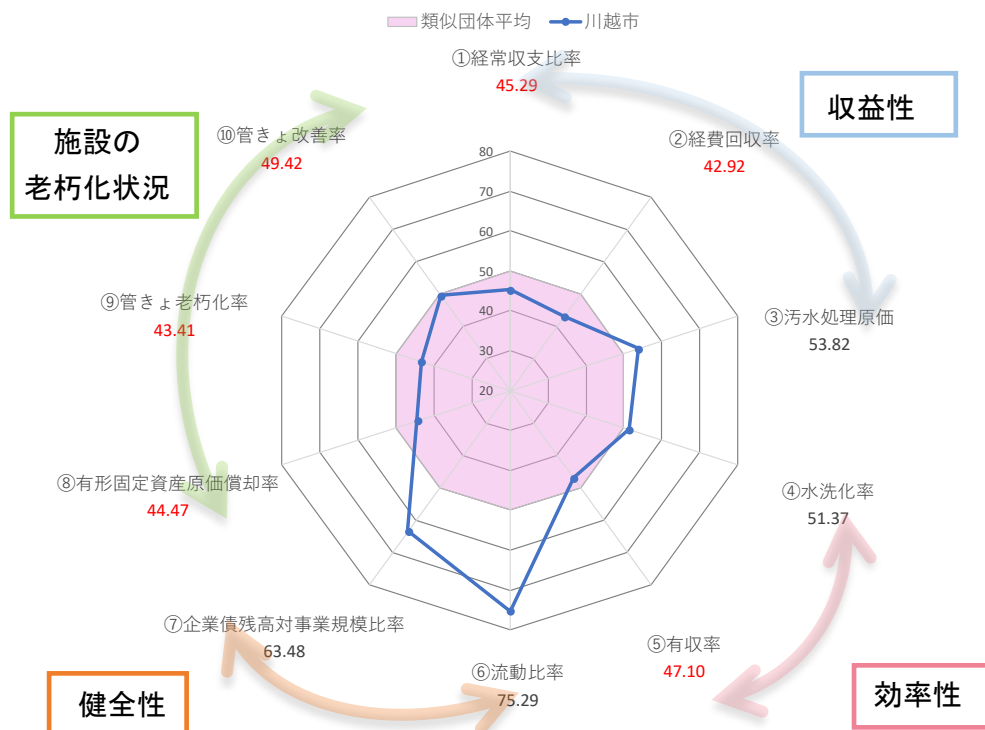
経営比較分析表とは、総務省が示した統一様式により、公営企業における経営や施設の状況を表す指標について、経年変化や類似団体平均との比較分析を行うことで、現状や課題等を把握することができる資料です。

本取組状況報告書では、経営比較分析表から令和5年度の各指標値を抽出し、類似団体の平均（ピンク色）を偏差値50とし、外側に向かうほど各指標が平均よりもよいことを表すレーダーチャートを下図のとおり作成しました。

また、次ページ以降に掲載している経営比較分析表では、令和5年度以前の5年間ににおける各指標値と類似団体平均値を比較するとともに、本市の令和6年度の指標値を示しています（令和6年度の類似団体平均値は、総務省より令和8年2月頃に公表される見込みです）。

なお、類似団体とは、処理区域内人口規模、人口密度等により区分されたもので、川越市は「処理区域内人口10万人以上、処理区域内人口密度75人/ha以上」の区分に属しています（令和5年度は全国に30団体あります）。

経営比較分析表レーダーチャート（令和5年度 公共下水道事業）

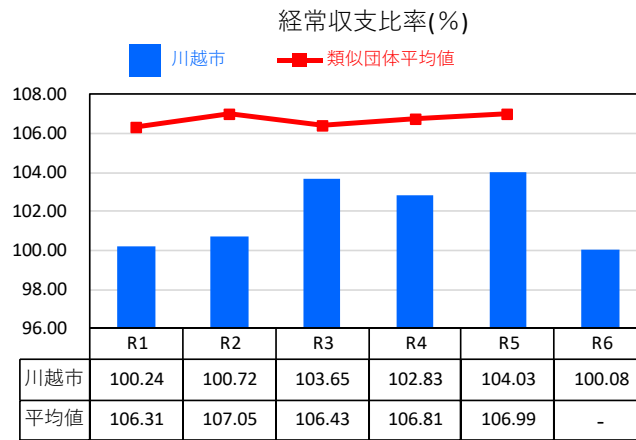


*有収率は経営比較分析表の指標ではありませんが、本経営戦略では分析の項目に追加しています。

令和6年度取組状況報告書

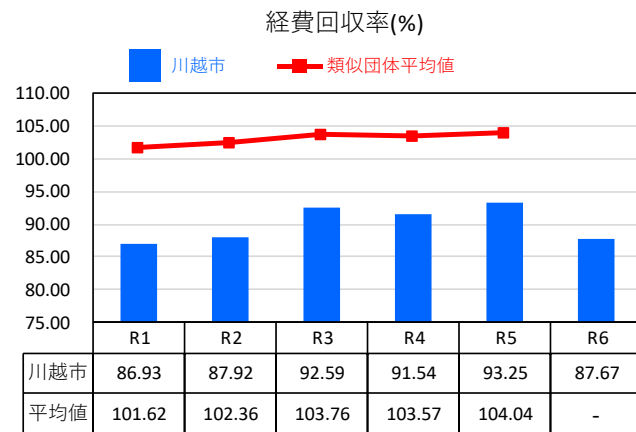
収益性 に関する指標

業務指標	①経常収支比率(%) 評価基準 高い方がよい 計算式 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
①経常収支比率(%)	
評価基準	
高い方がよい	
計算式	
説明 毎年度の維持管理費や支払利息等の費用を、使用料収入や繰入金等でどの程度賄えているかを示す指標です。100%以上であるときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。	評価 100%以上で推移していますが類似団体より低い水準にあります。昨年度は流域下水道維持管理負担金の増加等に伴い、数値が低下しました。引き続き、適正な使用料収入の確保や経費削減に努める必要があります。



収益性 に関する指標

業務指標	②経費回収率(%) 評価基準 100%を超えること 計算式 $\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費 (公費負担分を除く)}} \times 100$
②経費回収率(%)	
評価基準	
100%を超えること	
計算式	
説明 汚水処理に要した経費を、使用料収入でどの程度賄えているかを示した指標です。使用料水準等の評価することが可能で、すべて使用料収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な使用料が確保されていることとなります。	評価 昨年度は、汚水処理水量の増加に伴い汚水処理費が増加したため、数値が低下しました。今後想定される施設の維持管理を見据えた適正な使用料水準の検討や不明水対策等による汚水処理費の縮減に引き続き努める必要があります。



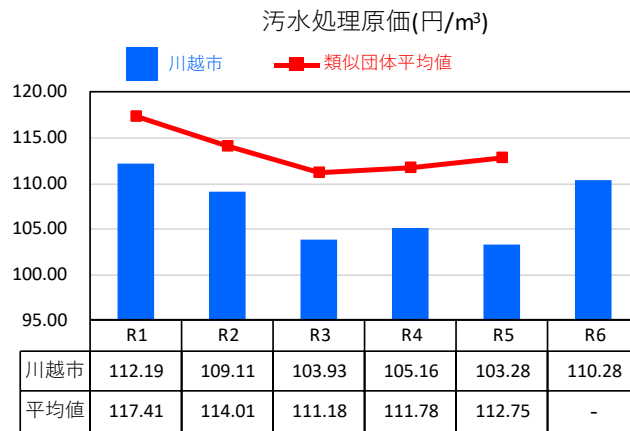
川越市上下水道事業経営戦略 (R2 経営戦略)

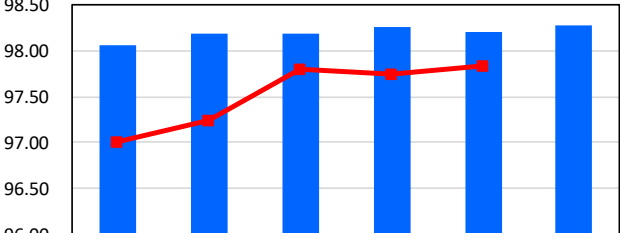
令和6年度取組状況報告書

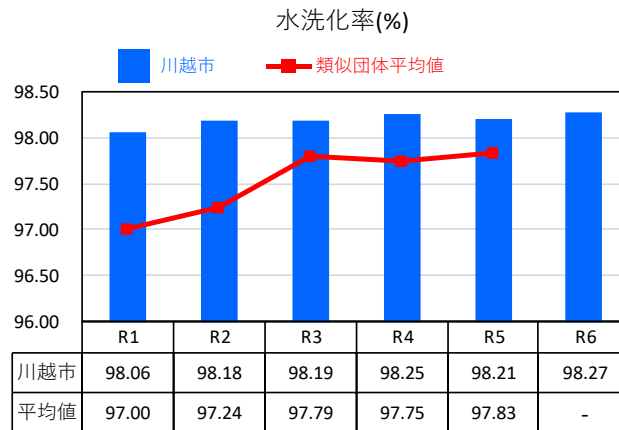
収益性 に関する指標

業務指標	
③汚水処理原価(円/ｍ ³)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
汚水処理費 (公費負担分を除く) 年間有収水量	
説明	
下水道使用料の対象となった水量1㎡当たりの汚水処理に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方がよいとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行う必要があります。	
評価	
昨年度は、汚水処理水量の増加に伴い汚水処理費が増加したため、数値が上昇しました。今後も経費削減に努めるとともに、不明水対策等を推進する必要があります。	

汚水処理原価(円/ｍ ³)							
	川越市	類似団体平均値					
		R1	R2	R3	R4	R5	R6
川越市	112.19	109.11	103.93	105.16	103.28	110.28	
平均値	117.41	114.01	111.18	111.78	112.75	-	



収益性		に関する指標																						
業務指標		水洗化率(%) ■ 川越市 ■ 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>98.06</td><td>98.18</td><td>98.19</td><td>98.25</td><td>98.21</td><td>98.27</td></tr><tr><td>平均値</td><td>97.00</td><td>97.24</td><td>97.79</td><td>97.75</td><td>97.83</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	98.06	98.18	98.19	98.25	98.21	98.27	平均値	97.00	97.24	97.79	97.75	97.83	-
	R1			R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	98.06			98.18	98.19	98.25	98.21	98.27																
平均値	97.00			97.24	97.79	97.75	97.83	-																
④水洗化率(%)																								
評価基準																								
高い方がよい																								
計算式																								
$\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$																								
説明		評価																						
処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理をしている人口の割合を示す指標です。100%となることが理想です。		類似団体をやや上回っており、良好な数値となっています。資産の有効活用や使用料収入の確保のため、引き続き公共下水道への接続に向けた指導等を推進する必要があります。																						



令和6年度取組状況報告書

効率性 に関する指標

業務指標		有収率(%) <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>65.70</td><td>68.60</td><td>74.04</td><td>75.30</td><td>79.11</td><td>70.98</td></tr><tr><td>平均値</td><td>80.01</td><td>82.79</td><td>80.41</td><td>82.29</td><td>82.23</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	65.70	68.60	74.04	75.30	79.11	70.98	平均値	80.01	82.79	80.41	82.29	82.23	-
	R1			R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	65.70			68.60	74.04	75.30	79.11	70.98																
平均値	80.01			82.79	80.41	82.29	82.23	-																
⑤有収率(%)																								
評価基準																								
高い方がよい																								
計算式																								
$\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間汚水処理水量}} \times 100$																								
説明		評価																						
各家庭・事業所等から出た汚水量のうち、実際に下水道使用料の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほどよいとされています。		降雨量の増加に伴い、不明水量が増加したことで、数値が低下したものと思われます。類似団体よりも低い水準で推移しているため、今後も流量調査やカメラ調査等の効率的な不明水対策を継続して実施していく必要があります。																						

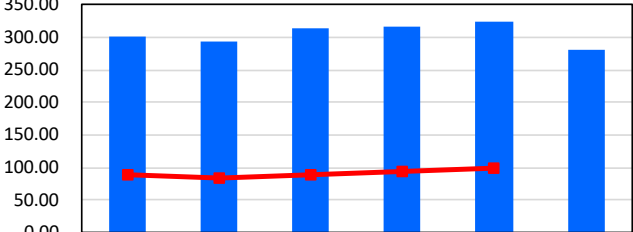
効率性 に関する指標

業務指標																						
施設利用率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$																						
施設利用率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>平均値</td><td>67.37</td><td>67.71</td><td>70.92</td><td>66.82</td><td>65.14</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	-	-	-	-	-	-	平均値	67.37	67.71	70.92	66.82	65.14	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	-	-	-	-	-	-																
平均値	67.37	67.71	70.92	66.82	65.14	-																
説明	評価																					
下水道施設の効率性を示し、施設の利用状況や適正規模を判断するための指標です。明確な数値基準はありませんが、高い数値の方がよいとされています。数値が高すぎる場合は施設の余裕が少なく、低すぎる場合は無駄のある状態です。	本市は処理場を有していないため、該当しません。																					

川越市上下水道事業経営戦略（R2 経営戦略）

令和6年度取組状況報告書

健全性 に関する指標

業務指標																						
⑥流動比率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$																						
流動比率(%) 川越市 類似団体平均値  <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>300.79</td><td>292.90</td><td>313.29</td><td>316.13</td><td>323.16</td><td>281.03</td></tr><tr><td>平均値</td><td>88.10</td><td>84.84</td><td>88.42</td><td>93.63</td><td>100.41</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	300.79	292.90	313.29	316.13	323.16	281.03	平均値	88.10	84.84	88.42	93.63	100.41	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	300.79	292.90	313.29	316.13	323.16	281.03																
平均値	88.10	84.84	88.42	93.63	100.41	-																
説明	評価																					
1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。200%を超えていることが望ましく、100%未満では不良債権が発生している可能性があります。	類似団体より高い水準を維持しており、短期的な支払能力を確保できています。																					

健全性 に関する指標

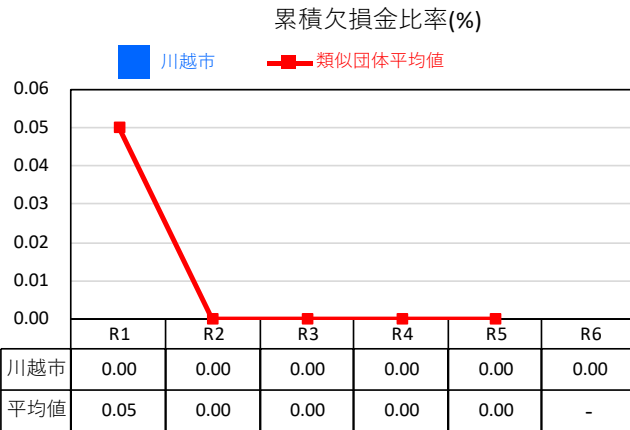
業務指標																						
⑦企業債残高対事業規模比率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{企業債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$																						
企業債残高対事業規模比率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>156.26</td><td>146.39</td><td>133.20</td><td>119.36</td><td>96.88</td><td>76.10</td></tr><tr><td>平均値</td><td>585.56</td><td>565.62</td><td>544.61</td><td>525.07</td><td>499.16</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	156.26	146.39	133.20	119.36	96.88	76.10	平均値	585.56	565.62	544.61	525.07	499.16	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	156.26	146.39	133.20	119.36	96.88	76.10																
平均値	585.56	565.62	544.61	525.07	499.16	-																
説明	評価																					
企業債の残高と使用料収入等の収益との比率を示す指標です。明確な数値基準はありませんが、比率は低い方がよいとされています。ただし、世代間負担の公平性という観点からは、企業債を一定程度活用することも望まれます。	類似団体より低い水準で推移しています。企業債は、今後も更新事業の財源とする見込みであるため、使用料水準や世代間負担を考慮した適正な水準を定めたうえで活用する必要があります。																					

川越市上下水道事業経営戦略 (R2 経営戦略)

令和6年度取組状況報告書

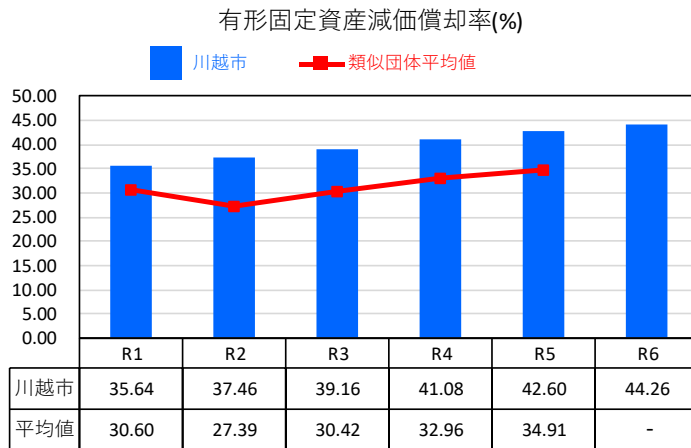
健全性 に関する指標

業務指標	累積欠損金比率(%) 評価基準 低い方がよい 計算式 $\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$
累積欠損金比率(%)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
説明 累積欠損金とは、営業活動の結果発生した損失が、当該年度で処理できずに複数年度にわたって累積したものを示しています。健全な経営を維持していく上では、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。	評価 本市では、累積欠損金は発生していません。



施設 の老朽化状況

業務指標	⑧有形固定資産減価償却率(%) 評価基準 低い方がよい 計算式 $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$
⑧有形固定資産減価償却率(%)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
説明 有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいることを示しています。	評価 類似団体より高く、上昇傾向にあります。施設の老朽化が進行しているため、計画的、効果的な償却対象資産の更新等を行う必要があります。



令和6年度取組状況報告書

施設 の老朽化状況

業務指標																						
⑨管きょ老朽化率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
法定耐用年数を経過した 管きょ延長 下水道布設延長 × 100																						
管きょ老朽化率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><thead><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>川越市</td><td>8.67</td><td>10.21</td><td>10.28</td><td>13.31</td><td>14.77</td><td>18.16</td></tr><tr><td>平均値</td><td>5.02</td><td>5.86</td><td>6.96</td><td>8.49</td><td>10.43</td><td>-</td></tr></tbody></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	8.67	10.21	10.28	13.31	14.77	18.16	平均値	5.02	5.86	6.96	8.49	10.43	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	8.67	10.21	10.28	13.31	14.77	18.16																
平均値	5.02	5.86	6.96	8.49	10.43	-																
説明	評価																					
法定耐用年数を超えた管きょ延長の割合を示す指標で、管きょの老朽化度合いを表しています。	類似団体より高く、上昇傾向にあります。施設の計画的な点検・調査と長寿命化を含めた改築を行うストックマネジメントの活用により、施設全体の機能保全を図る必要があります。																					

施設 の老朽化状況

業務指標																						
⑩管きょ改善率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
改善（更新・改良・維持） 管きょ延長 下水道布設延長 × 100																						
管きょ改善率(%) 川越市 類似団体平均値 <table><tr><th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>川越市</td><td>0.18</td><td>0.43</td><td>0.07</td><td>0.04</td><td>0.11</td><td>0.01</td></tr><tr><td>平均値</td><td>0.19</td><td>0.19</td><td>0.14</td><td>0.15</td><td>0.12</td><td>-</td></tr></table>			R1	R2	R3	R4	R5	R6	川越市	0.18	0.43	0.07	0.04	0.11	0.01	平均値	0.19	0.19	0.14	0.15	0.12	-
	R1	R2	R3	R4	R5	R6																
川越市	0.18	0.43	0.07	0.04	0.11	0.01																
平均値	0.19	0.19	0.14	0.15	0.12	-																
説明	評価																					
その年度に更新・改良・維持した管きょ延長の割合を示した指標で、改善の取組状況を表しています。標準耐用年数の50年で全ての管きょを改善するためには、毎年2%ずつ改善する計算となります。	近年は類似団体より低い水準で推移しています。管きょは今後も老朽化の進行が見込まれるため、計画的に機能保全を図っていく必要があります。																					

川越市上下水道事業経営戦略（R2 経営戦略）

川越市上下水道事業経営戦略（R2 経営戦略）
（令和 6 年度 取組状況報告書）

令和 8 年 1 月発行

川越市上下水道局 総務企画課

〒350-0054 川越市三久保町 20 番地 10

TEL: 049-223-3063